

「文部省買入楽譜」と明治期出版唱歌集における西洋曲 長谷川 由美子

明治期の楽譜出版の大部分を占める唱歌集は多くの西洋曲で占められていた。初期の多くの楽譜に作曲者表示がないが、原曲追及は様々な文献で散発的に行われてきたに過ぎない。その移入経路については若干の文献が取り上げたにもかかわらず、未開拓の分野である。この論文では明治初期と中期に文部省が買入れ、現在国会図書館に所蔵されている欧米の唱歌集がその移入元の一部であることを明らかにした。その結果、歌の付いた西洋曲の約 30 パーセントの旋律は「文部省買入楽譜」を起源としていた。初期の「文部省買入楽譜」の中心はアメリカ出版譜であり、中期「文部省買入楽譜」の中心はドイツ語圏の出版譜である。これは教育全般のお手本がアメリカからドイツに移ったことと呼応しているが、アメリカ出版譜も、ドイツ起源のホーマンの翻訳本をはじめ、ドイツ起源の曲を掲載した曲集が日本にもたらされたため、結果的にはドイツ起源の曲が多く唱歌に含まれることになった。また、「文部省買入楽譜」には多くの讚美歌が含まれていたことも判明した。「文部省買入楽譜群」は、洋楽受容史を考察する上で重要な資料と評価される。